

平成30年度 第2回温海地域振興懇談会 会議概要

○日 時 平成30年8月9日（木） 午後1時30分～午後3時40分

○会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
市民からの意見聴取概要について
4. 協 議
 - (1) 温海地域の施策の方向性（案）及び具体的事業（案）について
 - (2) その他
5. 閉 会

○公開・非公開の別 公 開

○傍聴者の人数 なし

○ 委員発言の概要

【温海地域の施策の方向性（案）及び具体的事業（案）について】

A委員

- ・各自治会で有線放送設備の維持管理に苦慮している中、ICTを活用した新たな情報伝達システムの構築に期待する。

市

- ・災害対応に加え、交通の確保や買い物支援等の機能も考慮しながら調査研究を進めたい。
- ・様々な技術を活用しながら、地域の中で安心して暮らし続けるための施策を展開したい。

B委員

- ・自治会機能に関連し、自治会としての規模的下限の認識はあるか。

- ・温海地域の将来人口の推計はあるか。

市

- ・自主運営が基本であり、市としての規模的下限の考え方はない。
- ・規模によらず「住み続けたい」意思を尊重し支援策を検討することになる。
- ・鶴岡市人口ビジョン策定の際の推計で、2040年の温海地域は約4500人と推計している。

C委員

- ・鼠ヶ関IC付近に計画している「新道の駅」は、利用者が使いやすいような施設配置を望む。
- ・仙北市の「わらび座」の事例を参考に、稼ぐ力（素材）の視点を大事にするべき。

D委員

- ・先の豪雨を経験し、「高齢者を支えあう」点において、隣組など狭い範囲で住民相互“しっかり把握”する必要があると感じた。

B委員

- ・温海地域は、気軽に「周遊」できる地域ではないと思う。観光等の観点からも地域内周遊を進めるために道路網整備を望む。
- ・あつみ温泉の振興の観点からも、温海地域内の大型バス通行許可手続きについて、温海交番でも可能なように配慮を望む。

E委員

- ・雪は暮らしにくい要因の一つであるが、利雪・親雪の視点で「雪を楽しみに変える」施策を盛り込めないか。
- ・除排雪の関係で、道路から玄関までの除雪や屋根の雪下ろしについては高齢者世帯を含め隣近所の支えあいが重要になってくるので、その対策は課題の一つと認識している。

F委員

- ・遊休資産である小学校等の廃校を利用するという観点で、あつみ農地保全組合では鶴岡市からの委託を受け、旧福栄小学校を活用し、人工飼料を取り入れた養蚕に取り組む予定。
- ・関連して、「サムライゆかりのシルク」はまだまだPR不足と感じている。
- ・豊富な「桑」を活用した6次産業化を目指したい。桑茶、シルク麺など「新たな価値づくり」にもチャレンジしていきたい。

G委員

- ・あつみ温泉の振興の関係で、温海温泉林業センター駐車場からいかに歩かせて楽しませるかがポイント。
- ・そのために空き家・空き店舗対策は有効に講じる必要がある。
- ・休憩するベンチを置いたり花を飾ったりしているが、さらに増やしていく必要がある。旅館組合青年部でも「浴衣プロジェクト」で頑張っている。いろんな施策を有効に重ねていくべき。
- ・日沿道全線開通により「人の流れ」は変わり、関西圏からの人の流れができるはず。温海地域で「降りて」いただくよう努力するとともに、しゃりんを団体向け食事会場にしてはどうか。
- ・鼠ヶ関 I C 周辺に計画されている「新道の駅」に関連し、鼠ヶ関を寺泊のような海産物市場にできないかと考えている。
- ・H33 の開湯 1200 年と H34 の酒井藩湯役所設置 400 年は、あつみ観光協会としてもイベント等で盛り上げていきたい。
- ・個人的には湯役所や正面湯を再現し、江戸時代の風情をあつみ温泉に取り戻したいと構想している。

H委員

- ・郷土愛醸成において大事なことは、子供たちに「大人が楽しそうにしている姿」をみせること。「夢」を語ること。
- ・高齢者の支援に関連して、高齢者自身も自分も何か役に立ちたいと思っている方が大勢いる。高齢者の力を活かすことを考えていきたいし、それにより「今を生きる楽しさ」を感じてもらえるはず。

(会長コメント)

- ・子供達に地域の素晴らしさを感じてもらえるように、大人は夢を持ち語るべき。それが夢に終わらず現実に進んでいけばなお良い。

I委員

- ・あつみ温泉の振興に関連して、あつみ温泉は旅館あつての温泉地であるので、旅館と連携した更なる P R が必要と感じる。
- ・温海地域の人口が五千人を下回る推計があり、山間部だけでなく温泉街からも銀行などの施設が撤退することが予想される。そうならないように、400 年の歴史のある温泉地を盛り上げていただきたい。

J委員

- ・高齢者の社会参加の観点で、老人クラブの皆さんの力をどうやったら引き出せるかを

常々考えている。

- ・湯之里老人クラブでかぼちやの栽培に取り組んでおり、収穫祭や試食会を予定している。
- ・高齢者の力やノウハウを生産活動に活かしつつ、老人クラブの活動や組織を活性化したい。

A委員

- ・防災の観点で、現在は、気象的に災害が発生しやすくなっている。
- ・各自治体でハザードマップを作成しているが、先日に西日本豪雨では、河川の氾濫により家の中で水死した例もあるが、ハザードマップで想定されていた被害（内容）であったという。
- ・鶴岡市でも洪水マップ、土砂災害ハザードマップ、津波ハザードマップと3種類あるが、配布しただけではだめで、それぞれの自治会（或いは隣組単位）で図面を使いながら検討し共有するように仕向けるべきと考える。

D委員

- ・8月6日の広島原爆投下の8時15分に旧山北町現村上市では長いサイレンを鳴らした。
- ・これからの子供達に戦争というものを「語り継ぐ」という点で、鶴岡市でも検討してはどうか。

E委員

- ・「しな織」に地域おこし協力隊を是非配置してほしい。
- ・地域おこし協力隊が複数配置されることにより、その効果は大きいと思う。
- ・高齢者の支え合いの点で、木野俣ではいきいき隊が主体となり、どんぐり漬けを出荷し始めた。最高年齢は90歳だが、何かをやることによって生きがいを見いだすことにつながり、自分はあてにされていると感じているようだ。
- ・健康を保ちながら「ここを離れたくない」と感じてもらうことが大事である。
- ・来年以降、是非ともミニデイを使いやすく復活させてもらいたい。

B委員

- ・ふるさと温海会に参加し、この地域を離れて首都圏で活躍されている多才な方々、いろんなヒントを与えてもらった。ふるさとを強く思っている方々が大勢いる。
- ・こういう場に、ふるさと温海会からもメンバーに加えられないかと提案する。

市

- ・これからは、関係人口（住んではないが地域を応援してくれる方々）が大変重要にな

ってくる。

- ・関係人口を増やししながら、地域を活性化していく仕組みを考えていかなければならない。

J 委員

- ・しな織の振興に関連し、関川地区を「織物の里」にできないものかと常々考えている。
- ・ただ単にしな織だけでなく、つづれ織などいろんな織があるので、若い人を定住させつつつづれ織をやっていくことは可能であると思う。併せて、シルクと関川を結び付けた織の里を目指してはどうか。
- ・関川地内の街路樹として、しなの木の植樹を提案する。
- ・「織物の里」「街路樹」「しなの花の活用」というふうに、しなの木を活用した取り組みや、それに食を組み合わせることでより展開が広がると思う。

K 委員

- ・外国人旅行者受入体制に関連し、外国人は入墨をしている方が多い。全国的には拒否する施設が多いが、拒否すれば外国人観光客は減少する。偏見を持たないようにするべきと考える。
- ・情報伝達手段の関連で、近年モバイル系の技術進歩が目覚ましい。現在の有線放送設備（機能）をモバイル系で代替出来ないものかと考える。
(会長コメント)
- ・外国人にとって入墨（タトゥー）は普通のことで、おしゃれなファッションという感覚である。是非偏見を持たないようにしたい。
- ・今回提案されている新たな情報伝達機能は、「調査研究」のようである。技術は進歩するので、どの時点の技術（タイミング）を導入するか。あまりにも先を見据えたものより、ある程度妥協したものというのもひとつの方法かと思うので要検討である。

会長

- ・今後も市民との意見交換が予定されているようなので、本日の内容と合わせてブラッシュアップし次の地域振興懇談会につなげていきたい。（懇談会は）あと数回予定されているので、委員皆様の引き続きのご協力をお願いしたい。

【その他】

I 委員

- ・あつみ温泉地内の一方通行路線について、逆走する車がみられる。是非わかりやすい表示をお願いしたい。

以上